

ISO/TC225 WG3 第 4 回会議、WG1 第 7 回会議参加報告

ISO/TC225 国内委員会 委員長 一ノ瀬 裕幸

1. 国際会議の概要

ISO/DIS19731 (Web Analyses) の発行に向けた TC225/WG3 の第 4 回国際会議 (実質的な最終回) と、ISO20252 の改訂 (ISO26362 の組み込みを含む) を担当する WG1 会議 (通算 7 回目、休眠～再開後の実質 1 回目) が、スペイン・マドリッドで開催された。

(1) TC225/WG3

日 時： 2016 年 10 月 5 日 (水)

会議名： ISO/TC225 WG3 第 4 回国際会議

参加者： WG3 メンバー (7 カ国+3 オブザーバー機関、計 17 名参加)

Convenor: Mr. Erich Wiegand (ドイツ ADM 代表)

Secretary: Mrs. Annette Altenpohl (オーストリア ASI 事務局)

参加国： 日本 (一ノ瀬：1)、イギリス(1)、カナダ(2)、オランダ(2)、アメリカ(1)、
オーストリア/ドイツ(WG3 議長国：2)、スペイン(3)、WAPOR (オブザーバー：1)、
ESOMAR (オブザーバー：1)、ARIA (オブザーバー：メキシコ 1)、
ASI (オーストリア WG3 事務局：1)、AENOR (スペイン TC225 事務局：1)

場 所： マドリッド AENOR 本部 会議室

※1) オーストリアとドイツは、1つの代表国としてカウント

※2) ARIA からはメキシコの担当者が参加したが、国を代表してはいない

(2) TC225/WG1

日 時： 2016 年 10 月 5 日 (木) ~7 日 (金)

会議名： ISO/TC225 WG1 第 7 回国際会議

参加者： WG1 メンバー (8 カ国+3 オブザーバー機関、計 21 名参加)

Convenor: Mr. Don Amberse (カナダ MRIA 代表)

Secretary: Mrs. Natalia Oritz de Zarate (スペイン AENOR 事務局)

参加国： 日本 (一ノ瀬：1)、イギリス(2)、カナダ(WG1 議長国：2)、オランダ(2)、
アメリカ(2)、オーストリア/ドイツ(1)、オーストラリア(2)、スペイン(5)、
ESOMAR (オブザーバー：1)、WAPOR (オブザーバー：1)、
ARIA (オブザーバー：メキシコ 1)、AENOR (スペイン TC225 事務局：1)

場 所： マドリッド AENOR 本部 会議室

※1) オーストラリアがこの会議から参加、8 カ国での会合となった

※2) WG3 議長の Erich 氏と事務局の Annette 氏は帰国

2. 討議／決定事項

(1) ISO/DIS19731 (Web Analyses) に関する検討が終了、2017年初頭に正式発行へ

先般行われた国際投票で、11対0の賛成多数により、19731のドラフトをDIS化することが承認されている。今回のWG3では、ISO事務局からの編集面の修正要請と、DIS投票時に提出されたコメントについて逐一協議し、すべての審議を終了した。

今回の協議結果を反映させた最終ドラフトの編集が終了した後に、TC225参加国内で4週を期限とした最終投票が行われ、FDISをスキップして正式発行されることになる。目標期限は、「2017年の第1四半期(1~3月)中」となった。

(今回の会合結果をもって、WG3の使命は終了となる)。

⇒ その後のPメンバー間の国際投票で、8対0の賛成多数により、19731はFDISの過程をスキップして発行手続きを進めることが承認された。

(2) ISO20252の改訂については全コメントの検討を終了できず、次回東京会議に持ち越し

上記のWG3終了後、休憩をはさんで新たなメンバー(オーストラリアのほか、アメリカとイギリスの増員)の追加や入れ替わりが行われ、WG1が開催された。

もともと、初期ドラフトに対する各国のコメントを集約した文書が66ページに及ぶところとなり、すべての検討が可能かどうか危惧されていたが、残念ながら時間切れで「用語の定義」と「Annex C」には触れられず、次回会合に持ち越しとなった。

(もちろん次回には、今回の議論に基づいた修正案すべてについても検討対象となる)。

(3) Annex C (ISO26362との統合部分)のドラフトについては臨時作業グループを編成

検討時間を短縮するため、加/英/米/独/蘭の5ヶ国の担当が指名され、今回寄せられたコメントとARIA提出のAnnex Xを加味し、再修正ドラフトを準備することが確認された。

年内に再作成・編集の上でWG1事務局に提出し、2017年1月中に各国メンバー宛て回覧することが申し合わされた。

3. 今後の作業スケジュール

- ① 2017年4月19日(水)~21日(金)に、WG1会議を東京で開催する。
- ② その次の会合は、ESOMAR総会(Congress: at.アムステルダム)の開催に合わせ、2017年9月14日(木)~16日(土)に開催する。
- ③ 改訂版ISO20252の発行は、2018年の早い時期を目指す。

4. 会議の状況と関連情報

(1) ISO19731 (Web Analyses) については順調に進捗

- ・ 今回、WG3に割り当てられた予定は3時間しかなかったが、議長の的確な運営により、時間きっかりにすべての審議を終えることができた。また、日本からの指摘事項はほぼすべて受け入れられるところとなった。

次の課題は、いわゆるビッグデータの取扱いに関する本規格をどのように活用し、市場調査業界の事業領域拡張に役立てるか、である。日本国内での認証体制をどうするかは、

JMRA会員社の要望等を踏まえて検討することになる。

(2) 改訂版 ISO20252 は、Annex 方式で作成

- ・ 日本側に誤解があったのだが、前回会議で決定された「1つの文書として作成」には Annex方式を前提とした含意があり、英語圏の代表はそのように理解していたとのこと。改めて「認証取得希望の調査機関には全文を一括で購入してもらうが、どの要求事項を適用するかを自ら宣言してもらうことで、認証取得に必要な範囲を特定する」ことを確認した。
規格の最終版（少なくともDISの段階）で、日本の認証スキーム（A～D、P、Q等）に適用する場合の基本パターンを想定することで、対応は十分に可能と思われる。

(3) 議題のすべては消化しきれず、懸案事項が残るものの、日本の主張は取り入れられた

- ・ 今回はISO20252の大きな改訂となるため、第3章（現行3～7章の全面的な再編）のあり方をめぐって激論が戦わされた。「議長預かり」として検討を先送りすることになった箇所もあり、ドラフト第2版の内容がどうなるかが注目される。
- ・ 特に、GDPR（EUの一般データ保護規制＝新しい個人情報保護法にあたる）が公表されたことを受け、それへの対応を意識して盛り込む必要があることが提起された（主に英より）。
- ・ なお、要求事項に対応すべき主体を表す用語は”Service provider”に統一すること、調査員訓練の要求事項は復活させる（「どこに入れるのがふさわしいか？」は未決）ことなど、日本の提案を反映させられた点多々あり、こうした国際会議の場に参加することの重要性を改めて痛感した。
- ・ 参考までに、多数の文書発言を用意しながらも代表を送れなかったイタリアの意見は（内容的に的を射ていなかったこともあるが）ほとんど採用されることがなかった。
また、前回までISO26362の存続を強く主張していたオーストリア/ドイツの論客は今回は参加せず、その面での議論の蒸し返し等はなかった。

(4) ISO文書の記述に関する基本指針の一部変更

- ・ 内容面に関する直接的な影響はないが、ISO内部での指針変更があり、今後作成（または改訂）されるすべての版から適用される。
- ・ 法的な要求事項（Legal requirements）については、「当然のこと」として記載しない。
- ・ 文書内の”this International Standard”は、すべて”this document”に表現を変更する。

(5) 次回のTC225/WG1は東京で開催（2017年4月）

- ・ ISOの会議は「五大陸持ち回り」が理想とされており、東京（アジア）での開催は11年ぶりとなる。
ISO26362を組み込んだ新ISO20252の、骨格を決める討議の場になる可能性が高い。ホスト国として関係各所と準備・調整を進め、「おもてなし」の精神で対応したい。

<参考> ARIA（南北アメリカ大陸のリサーチ協会連合）について

先の国際投票でリエゾン（連絡役：オブザーバー）として正式承認されたARIAより、代表が初めて参加した（以下はメキシコの代表にヒアリングしたもの）。

- ・ 現在、11カ国で組織。中心となっているのはアメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジルなど。将来的には15カ国にまで拡大することを目指している。
- ・ メキシコ全土には約400社の調査会社があり、うち70社をリサーチ協会が組織している。
- ・ GRBNやTC225の活動を通じ、業界の品質向上に寄与したいと考えている。活動の裏付けとなる財政面の制約を何とかすることが課題。
- ・ メキシコでもISO関連の文書はスペイン語訳する必要があるが、スペインが翻訳してくれたものをもって少し手直しする（メキシコ流の方言のようなものがあるため）だけですので、そこは助かっている。
（なお、当のスペインの協会（ANEIMO）も財政事情は厳しいらしく、協会事務局から参加したメンバーが「次回の東京に代表を送れないかも？」と悩んでいた・・・）。
- ・ アメリカでは、来年CASRO（大手総合調査会社中心の団体）とMRA（中小およびフィールド調査会社中心の団体）が合併する予定。やはり財政面の問題を改善する目的と聞いている。

<WG1会合のようす：AENOR会議室>



以上